

一般質問



水野 千代子 議員

問 乳幼児液体ミルクを災害備蓄に

答 導入を前向きに検討していく

平成30年は全国で自然災害が頻発し、各地に被害をもたらした。

問 大型台風24号では、避難所が、6小学校と幸田高校の体育館となった。避難状況と今後の課題は。

答 (総務部長) 全体で20世帯35人が避難。今後も防災備蓄倉庫のある小学校の体育館と、放課後児童クラブ室なども活用したい。

問 日常生活の中で取り組める、女性の視点からの防災ブックの作成を。

答 まずは、女性の視点による避難所運営マニュアルの作成に、取り組みたい。

問 子どもの防災意識を高めるのに役立つ、「子ども防災手帳」の作成を。

答 家庭での自助に大いに役立つと思う。研究していく。

問 乳幼児液体ミルクが、国内製造、販売が解禁となった。災害備蓄品として導入を。

答 (消防長) 早期に調査し、導入を前向きに検討していく。

問 地区防災計画の考えは。

答 (総務部長) 深溝学区では、防災カルテの作成が進められている。町内のモデル事業として、全域に広げていきたい。

問 公園の記念植樹などに名札を

答 主な樹木に順次取りつけていく

木の名前を知ることが、木を大切にしようとする心



名札付けが待たれる樹木 (不動ヶ滝公園)

を育む。丁寧な説明には、心に深く思いを馳せられる。名札をつけることで、木に対する地域の思いも分かってくることから、以下を問う。

問 公園などに名札ではなく、「犬のフン禁止」の看板が目立つ。感謝系の文言に変更を。

答 (建設部長) 破損して更新が必要なものは、今

一度見直して、景観を損なわないように、感謝系の看板などに切りかえる工夫をしていきたい。

問 中央公園などにDEC Oウオーク幸田記念植樹がある。他の記念植樹と主な木に名札と説明文を。

答 記念樹は、樹種を知り、記念に植えられた背景に思いをめぐらすことも大切である。説明文と主な樹木に、樹名板を順次取りつけていきたい。

問 不動ヶ池案内図の看板を、不動ヶ池公園案内図とすべきである。

答 不動ヶ池公園という名前の看板を検討していく。

その他の質問

問 低出生体重児専用の母子手帳を。

答 県下の状況を見ながら対応。

一般質問



さこう ひろやす 酒向 弘康 議員

問 児童クラブ入所基準に公平感を

答 就労状況・家庭環境により優先



児童クラブを利用している子どもたち（中央小学校）

待機児の現状と入所基準の明確化、公平な選考、今後の対応を問う。

問 来年度の児童クラブが始まる前後に、役場窓口へ保護者からの問い合わせの内容と、その後のクラブの状況は。

答 **住民こども部長** 高学年でも入れるか、優先順位が不透明など。11月1日現在、14クラブで通年575人、長期361人が利用。待機は通年36人、長期73人。「本場にサービスが必

要な方に利用してもらおう」という対応策は。

答 低学年、ひとり親家庭を優先。

問 来年度からのクラブ入所基準と不公平感の改善点は。

答 就労状況・家庭環境により優先順位を決定する点数を周知。

問 父母と20歳以上70歳未満の同居親族に見直し、7月に就労状況の再調査、入所ニーズに対し、受け入れ定員不足が一番の問題点。今後の受け入れ

見通しと、保護者の「声」を反映するためのクラブの増設計画などは。

答 来年度、豊坂小学校第2児童クラブの改修で定員を10人増やす。児童数の動向に注意し、教育委員会と協議し整備を検討。

問 女性消防士の採用を

答 就職指導で採用の説明

消防活動、救急救命施策の取り組みを問う。

問 消防職員の充足率と設備、車両などの整備率の現状と近隣との比較。

答 **消防長** 人員は56人で54・4%、消防ポンプ自動車33・3%、他の車両は100%。岡崎・蒲郡市の車両は100%。救急出動が年々増加し

ている要因と、同時に2台・3台と重なる場合の人員確保は。

答 非番招集で対応。

問 非番出動が急増している要因と近隣との比較。

答 1人で年間60件救急要請もあり近隣に比べ多く、適正利用を呼びかけている。人員体制の不足も原因。

問 女性消防士採用は、女性視点が生かされる。計画は。

答 幸田高校生に消防署でインターンシップを実施。就職指導で採用の説明。

問 救える命を救うAEDのコンビニ店設置状況は。

答 来年度、リース方式で設置を検討。

問 町長公約の「消防本部のテラス化」の施設、人員、人材、仕事の内容と設置にあたっての課題。

答 **町長** 防災を中心に24時間見守る安全・安心の拠点。事業内容、運営体制を検討。

その他の質問

問 「命を守る」施策の強化を。

答 活動の支援に注力。